

弥生時代のむら—土器

土器は、縄文時代にはじめて登場しました。
当時、気候の変化により木の実が多く収穫できるようになり、
ドングリ系の、あく抜きをしないと食べられないようなものを
食べられるようにするため、煮炊きの道具として登場しました。

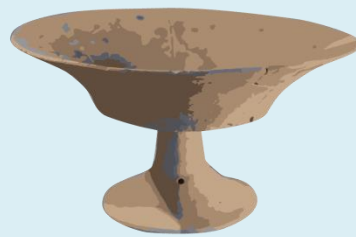
弥生時代の土器例



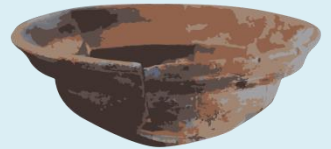
つぼ (貯蔵用)



かめ (煮炊き用)



たかつき高坏 (盛り付け)



鉢 (盛り付け)

弥生時代の土器は、普段の生活、特に「食」に密着した品物が多いですが、
そうした用途とは別の使われ方をすることもあります。
これらに加えて、土器を置くための台、器台と呼ばれるものもあります。
また、台がもともとくっついていて壺などもつくられています。

ポイント

焼き物である土器は、土の中で長い時間がたっても形が崩れたり、
なくなったりすることはありません。

また、大量に・頻繁につくられ形や模様の違いが生まれることから
考古学では、時代を考える一番の材料となります。